

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第3期神戸まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

神戸市

3 地域再生計画の区域

神戸市の全域

4 地域再生計画の目標

神戸市は 2012 年に総人口が初めて減少に転じ、神戸市の住民基本台帳に基づく人口では 2025 年 12 月 31 日現在 148.6 万人となっている。神戸市独自の将来人口推計では、何も対策を講じない場合、2060 年には 105.1 万人となり、2025 年比で総人口が約 7 割となる見込みである。人口の減少は、未婚化・非婚化などによる出生数の減少（自然減）や、若年層・ファミリー層の流出（社会減）などが原因と考えられる。なお、2025 年においては 11,226 人の自然減、4,779 人の社会増となっている。神戸市独自の将来人口推計によると、年齢 3 区分別の 2025 年から 2060 年までの人口動態は、年少人口（0～14 歳）は 16.2 万人から 7.5 万人、生産年齢人口（15～64 歳）は 88.9 万人から 54.8 万人、老年人口（65 歳以上）は 43.7 万人から 42.7 万人となり、それぞれ減少する見込みである。また、高齢化率は、2025 年 12 月現在において 29.3%であるが、何も対策を講じない場合、2060 年には 40.7%になる見込みである。人口減少、高齢化の進行は、労働力不足に伴う生産量の低下などの地域経済への影響、生産年齢人口の減少に伴う税収減や高齢化に伴う社会保障関連経費の負担増などの地方行政への影響、地域コミュニティの担い手不足や利用者減による公共交通の縮小などの住環境の安全・安心への影響、空き地や空き家の増加によるまちの景観やにぎわいが低下するなど、市民の暮らしを支える地域の社会・経済システムの維持・存続に影響を及ぼす可能性がある。

以上のような状況・課題に対応するため、長期的視点に立ち、AI、自動化技術の導入など、新たなテクノロジーの活用も考慮のうえ、未来を見据えた都市の持続可能性を重要することを基本姿勢とし、以下3つの方向性で取り組みを進めることで、まちの誇りを育み、次代に引き継いでいく。

方向性① 世界と繋がる2つの港 「新たな時代の国際都市」へ

神戸は、古くから外国との交流によって、多様な文化や気風を取り入れながら、まちを発展させてきた。空港の国際化により、神戸は国内外とのつながりがより一層強化される。多様な人材・技術・文化を取り入れ、神戸の強みと融合させることで、人・まち・しごとの魅力を高め、これからも「海と山に囲まれた美しいみなとまち」を守り育てながら、世界に開かれたまちとして、持続的な発展を目指す。

多様な文化や人との交流を促進し、グローバルに活躍する人材を育み、受け入れ、そして神戸への想いを胸に世界へ羽ばたいていく流れを加速させる。また、海と山が織りなす美しい風景や豊かな自然・文化との調和などの魅力に加え、都心・ウォーターフロント再開発による相乗効果を活かしながら、国内外へ神戸の魅力発信を強化していく。

さらに、国内外から集まる多様な人材や企業と、市内の大学や企業、行政等が組織を超えてつながり、イノベーションを創出することで、独立した経済圏を支えるものづくり、港湾、農水産、食、観光、医療・バイオ等の既存産業の発展、新たな成長産業の創出を加速させ、東京一極集中が進む中においても、関西圏ひいては日本全体の経済成長をリードしていく。

こうした機能強化により、神戸の国際的な存在感を高め、新たな時代の国際都市として、市民の暮らしをより豊かにしていく。

方向性② 個性豊かで多様な地域の融合 「日常と非日常が交わり続ける都市」へ

神戸の地理的特性や歴史の中で形作られた個性豊かなまちなみや、豊かな自然は、神戸ならではの魅力である。今後、人口減少が進む中でも、先人たちがこれまでの歴史の中で築いてきた貴重な財産を最大限に活かし、磨いていくことで、将来世代が充実したライフスタイルを送ることができるよう、これからも「多彩

な表情を見せるまち」を守り育てていく。

都心部では、居住機能との調和を図りながら、商業施設や業務機能の集積を進めていく。国内外から多くの人を訪れ、買い物やアート、食事など五感を刺激する体験ができる場を創出する。また、魅力的なビジネス環境の整備も進めていく。

既成市街地やニュータウンでは、まちの顔である駅を中心に、生活利便施設のリニューアルや、職住近接の取り組みを進める。さらに、商店街などに息づく下町文化を活かし、まちの魅力と暮らしの質を高めていく。

また、海や山、農村・里山地域など、神戸が誇る豊かな自然を守りながら、市街地との交流を促進することで、自然と調和するまちの魅力を高めていく。

そして、こうした多彩なまちなみをつなぐ公共交通網を維持・充実させ、それぞれの日常と非日常が交わる都市空間を実現することで、市民の満足度を高め、いつまでも住み続けたいと思えるまちへ、そして、国内外から愛され選ばれる都市を目指す。

方向性③ともに乗り越え育んだ絆「いつまでも幸せを感じ、分かち合える都市」



これまでの歴史によって培われた進取の気風や、ともに災害を乗り越えてきた絆は、神戸のまちと人に受け継がれてきた。今後、先行きが不透明な変化の激しい時代においても、誰もが寄り添って助け合い、そして、新たな挑戦を続けていくことで、いつまでも「人間らしいあたたかみのあるまち」を守り育てていく。

神戸の未来を担う子どもたちをはじめ、性別、年齢、障がいの有無、民族、国籍に関わらず多様な主体や団体が、地域の中でつながり、支え合いながら、誰もが安心して、それぞれの夢に向かって自由に挑戦でき、主役になれるまちを目指す。

また、子育て・教育環境の充実、健康・福祉の増進や、安全で快適な住環境を支えることで、一人ひとりの笑顔を育み、誰もが安心して健やかで心穏やかに暮らせる環境をつくる。

さらに、新たなテクノロジーと先進技術を積極的に取り入れながら、地球環境への貢献や次代をリードする防災力を強化し、より豊かで質の高い暮らしを実現させる。

そして、それらの取り組みを世界に発信することで、震災でいただいた多くの支援に、いつまでも感謝の気持ちを忘れることなく、国内外に貢献していくまちを目指す。

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2030年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	神戸空港利用者数	361万人/年	700万人/年	方向性①
ア	コンテナ取扱貨物量	277万TEU/年	300万TEU/年	方向性①
ア	労働生産性（市内就業者1人あたり市内総生産）	970万円/人	年率1%増加	方向性①
ア	大学発スタートアップ創出数	36件	120件	方向性①
ア	海外展開に取り組む企業の割合	10%	15%	方向性①
ア	都心・三宮の滞在人口	6,300万人/年	7,200万人/年	方向性①
ア	市内延べ宿泊者数	710万人/年	830万人/年	方向性①
ア	大学・高専の新卒者の市内就職率	15%	18%	方向性①
イ	都心・三宮の滞在人口	6,300万人/年	7,200万人/年	方向性②
イ	駅勢圏が生活関連サービスを提供する市街地にかかる市内鉄道駅の1日当たり乗降客数	128万人/日	128万人/日	方向性②
イ	公共交通分担率	33.1%	35.1%	方向性②
イ	商店街・小売市場エリアのにぎわい	3,300万人/年	3,300万人/年	方向性②

イ	里山林管理による森林資源の循環量	100m ³ /年	300m ³ /年	方向性②
イ	農村地域での農業参入・起業・移住数	120件/年	120件/年	方向性②
ウ	地域活動の活性度	3,000件/年	5,000件/年	方向性③
ウ	子育て関連事業の利用者満足度	90%	90%	方向性③
ウ	課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んだ児童生徒の割合	小6 78.0% (全国平均▲ 2.3%) 中3 72.5% (全国平均▲ 5.2%)	全国平均以上	方向性③
ウ	運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合	小5男 93.2% (全国平均▲ 0.2%) 小5女 85.3% (全国平均▲ 0.5%) 中2男 90.1% (全国平	全国平均以上	方向性③

		均▲ 0.8%) 中2女 76.4% (全国平 均▲ 0.8%)		
ウ	市域における再生可能エネルギー導入量	357MW/年	500MW/年	方向性③
ウ	公共インフラ(橋梁・上下水道)の耐震化率	74.3%	93.8%	方向性③
ウ	新たな市政課題に対応するために創出した時間数	0	50万時間/年	方向性③

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例(内閣府)：【A2007】

① 事業の名称

神戸まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 世界と繋がる2つの港を実現する事業

イ 個性豊かで多様な地域の融合により魅力を創出する事業

ウ とともに乗り越え育んだ絆を継承していく事業

② 事業の内容

ア 世界と繋がる2つの港を実現する事業

多様な交流を通じて世界で活躍する人材の育成を進める、新たな時代の

国際都市にふさわしい都市の魅力を作る、圏域経済を牽引する大都市として、神戸経済のさらなる成長と国際競争力を高める事業。

【具体的な事業】

- ・神戸空港の国際化への対応
- ・革新的な起業・創業支援
- ・国際コンテナ戦略港湾政策の推進 等

イ 個性豊かで多様な地域の融合により魅力を創出する事業

五感を刺激する体験と魅力的なビジネス環境を創出する都心をつくる、ゆとりある上質な暮らしが生まれる既成市街地・ニュータウンの再生を推進する、海と山を感じる豊かな自然を次代につなぐ、個性豊かなまちなみをつなぎ日常と非日常が交わる都市をつくる事業。

【具体的な事業】

- ・都心・三宮再整備
- ・空き家空き地対策の推進
- ・農村地域等の賑わい創出
- ・多彩なライフスタイルを実現する住宅供給・流通促進 等

ウ とともに乗り越え育んだ絆を継承していく事業

多様な主体や団体の協働や支え合いにより、誰もが安心して夢に向かって挑戦できる社会をつくる、子育てと仕事の両立を支え、こどもたちの健やかな成長と豊かな感性を育む、きめ細かい多様な支援により誰もが安心して健やかに暮らせる環境をつくる、ともに困難を乗り越えてきた絆と経験を活かし、あらゆる危機から市民の安全・安心を守る、既存資源を活かしながら新たな価値創出と循環型社会に貢献する、既存資源を活かしながら新たな価値創出と循環型社会に貢献する、デジタル技術の活用と行政機能の強化により、便利でわかりやすい市民サービスを提供する、国内外に貢献する持続可能な大都市をつくる事業。

【具体的な事業】

- ・外国人との共生

- ・子育て世帯の経済的負担の軽減
- ・災害対応力の向上
- ・デジタル化による市民サービスの利便性向上 等

※なお、詳細は第6次神戸市基本計画及び神戸2030ビジョンのとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））
4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

100,000,000千円（2026年度～2030年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度9月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに市WEBサイト等で公表する。

⑥ 事業実施期間

2026年4月1日から2031年3月31日まで

6 計画期間

2026年4月1日から2031年3月31日まで